


学校名	秋田県八峰町立八森小学校	
活動名	イルカの海とブナの森のつながりを学ぶ	
教科	総合的な学習の時間	
学年	第6学年	

1：活動の目的

原生的なブナ林が残る世界自然遺産「白神山地」を背後に抱く秋田県八峰町は、眼前に多くの鯨類も暮らす日本海が広がる海辺の町でもある。これまで陸と海それぞれの自然の豊かさについては多くの学習が行われてきたが、両者のつながりに深く切り込んだ学習は少なく、児童の認識は高いと言えない。

そこで、これまでも地域の海岸にもストランディングが見られている鯨類をきっかけに、海と山のつながりをテーマとした学習を行い、世界遺産にも認定されているブナの森が豊かな海を育てていること、海が存在がまた森を育てていることを体験的に学ぶ。これにより森とともに海洋自然環境の保全に対する認識を高めることを目的とする。

2：実施内容

【第1回：7月11日（火）5・6校時】八森小学校体育館

1) 「イルカの大きさはどれくらい？」

野生イルカの水中映像を観て確認しながら、プラスチックシートを用いて実物大のイルカの模型を作成することにより、実際には観察が難しいイルカの体のしくみを学んだ。

2) 「野生イルカはどんな生活をしているのかな？」

クイズ形式のゲームや水中映像を用いた解説で、海洋ほ乳類やイルカの定義、その生態、秋田県近海に生息する鯨類の特徴を学んだ。

【第2回：7月12日（水）3・4校時】八峰町文化交流センター

3) 「イルカの体のしくみはどうなっているのかな？」

実物大のイルカの模型やイルカの水中映像でイルカの細部のつくりを学んだ。

4) 「海洋哺乳類の特徴は何か？」

八森の海岸に漂着したオオギハクジラ骨格標本等の確認を通して、海洋哺乳類の特徴を学んだ。



【第3回：10月11日（火）5・6校時】八森小学校体育館

5) 「イルカの餌の餌の餌は何？」

ゲーム方式で海の世界連鎖を学んだ。海洋生態系の頂点にいるイルカも、人間も、多様な生物、そして陸からの栄養で増える食物プランクトンに支えられていることを学んだ。

6) 「海洋生物はどのようにつながっているのか？」

ゲーム要素の高い教材を用い、水の循環をテーマに森と海をつなぐを学んだ。地域の豊かな海産資源は森の存在が不可欠であり、森も海からの栄養や水蒸気に支えられていることを学んだ。

【第4回：10月12日（水）3・4校時】中浜地区海岸

7) 「海辺にはどんなものが流れ着くのか？」

ビーチコーミングを実施し、漂着物から海と陸、人間の暮らしのつながりを実感した。

8) 「森と海はどうつながっているのか？」

八森の海は、豊かなブナ林のある白神山地に支えられていることを学んだ。



4：地域との連携（協力いただいた方々）

- ①海の世界教育NPO bridge：伊東久枝氏（委託先・講師）
- ②国立科学博物館名誉研究員：山田格氏（講師）
- ③ネイチャーガイド：人見道夫氏（講師）
- ④八峰町・八峰白神ジオパーク推進協議会：工藤英美氏・辻正英氏・三輪拓磨氏・富山翔伍氏
- ⑤八峰町・あきた海辺の自然学校：打矢繁美氏・鈴木市郎氏
- ⑥弘前市・つがる野自然学校：谷口哲郎氏・宮下愛実氏

5：活動を実施して

本校にとって初めての「海洋教育パイオニアスクール」の実施でした。海の近くに住む子どもたちにとっては、イルカを通してじっくりと海を見つめ直すとてもよい機会となりました。前半部分の「イルカの学習」に関しては、専門家の力をお借りしなければ実施できない内容で、しかも、地域の学習素材（鯨の骨の標本）も活用することができました。後半の「海の世界連鎖・ビーチコーミング」に関しては、さらに八森の自然と八森の人を生かす学びにすべきであったと反省しています。

今回の事業を実施させていただいたことを基にして、もう一度「八森の海の世界」を、全職員でじっくりと考えて計画・実施していきたいと思っております。

多額な補助をいただき、6年生児童は貴重な学習をすることができました。ありがとうございました。

6年生「いるかの海とブナの森のつながりを学ぶ」

秋田県八峰町立八森小学校

【活動のねらい】

原始的なブナ林が残る世界自然遺産「白神山地」を背後に抱く秋田県八峰町は、眼前に多くの鯨類も暮らす日本海が広がる海辺の町でもある。これまで陸と海それぞれの自然の豊かさについては多くの学習が行われてきたが、両者のつながりに深く切り込んだ学習は少なく、児童の認識は高いと言えない。そこで、これまでも地域の海岸にもストランディングが見られている鯨類をきっかけに、海と山のつながりをテーマとした学習を行い、世界遺産にも認定されているブナの森が豊かな海を育てていること、海が存在がまた森を育てていることを体験的に学ぶ。これにより森とともに海洋自然環境の保全に対する認識を高めることを目的とする。

○時数 7月～10月 8時間（総合的な学習の時間8時間）

- 目標
- (1) イルカの実物大の模型を作ったり、クジラの骨の標本を確認したりして、海洋哺乳類の特徴を捕らえることができる。
 - (2) 食物連鎖を学ぶことで、人間も多様な生物や陸からの栄養で増える食物プランクトンに支えられていることを理解することができる。
 - (3) 食物連鎖やビーチコーミングを通して、森と海、人々の暮らしはつながっていることを理解することができる。
 - (4) 海洋教育の学びを通して、今後自分たちにできる環境保全について考えることができる。

【ご協力いただいた方々・連携機関】

- ①海環境教育NPO bridge
伊東久枝氏（委託先・講師）
- ②国立科学博物館名誉研究員
山田格氏（講師）
- ③ネーチャーガイド：人見道夫氏（講師）
- ④八峰町・八峰白神ジオパーク推進協議会
工藤英美氏・三輪拓磨氏・富山翔伍氏
- ⑤八峰町・あきた海辺の自然学校
打矢繁美氏・鈴木市郎氏
- ⑥弘前市・つがる野自然学校
谷口哲郎氏・宮下愛美氏

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
海の学び	八森のすばらしい自然に出会い、学習計画を立てよう。		I 海洋哺乳類を知ろう。(7月)			II 森と海をつながりを知ろう。(10月)			III 私たちにできることを考えよう。(11月)			
山の学び	①八森の自然のすばらしさは何か。		①イルカの大きさはどれくらい。 ②野生のイルカはどんな生活をしているのか。 ③イルカの体の仕組みはどうなっているのか。 ④海洋哺乳類の特徴は何か。			①食物連鎖とは何か？ ②海洋生物の関係は。 ③海辺にはどんな物が流れ着くのか。 ③森と海はどうつながっているのか。			①森と海の学習を通して何を学んだか。			
	②1年間でどんな学習をするのか。		1 ブナの植樹と自然観察会			2 留山の見学			②森や海を守るために私たちにできることは何か？			
			①ブナはどうやって植えるの。 ②なぜブナを植えるの？			①なぜ留山が必要なのか。						